

釈徹宗先生『念仏仏教の比較宗教学的考察』へのコメント

(のためのメモ)

鶴岡賀雄

○「比較宗教学」の視点から：「念仏は「祈り」か？」

・「比較宗教学」の「祈り」論の古典、フリードリヒ・ハイラー『祈り』(Friedrich Heiler [1892-1967], *Das Gebet*, 1919, 1923⁵)における「祈り」の定義

「祈りは、より高く、豊かで、強められた生を欲する基本的な衝動の表現である。」
「祈りとは、人格的(*persönlich*)であると考えられ現前するものとして体験された神 (*gegenwärtig erlebter Gott*)と、信仰者との生き生きとした交流(*lebendiger Verkehr*)、それも人間の社会的関係の諸形式(*menschliche Gesellschaftsbeziehungen*)を反映した交流である。」
(丸山空大・宮嶋俊一訳、国書刊行会、2018 (宗教学名著選4)、524頁)

祈り(*Gebet*)≠崇拜(*Anbetung*)、観照(*Kontemplation*)、凝念(*Andacht*)・・・

「宗教学」を謳いつつも完全にキリスト教的。

○代表的キリスト教神秘家アビラのテレジア(Teresa de Avila(1515-1582))の「念禱(*oración mental = mental prayer*)」の定義：

「念禱とは、わたしたちを愛しているのを知っている方〔神〕と、ふたりだけで何度でも頻繁に交わし合う、愛情の交わし合い(*tratar*: かかわりあい)にほかならない、と思っています。」(アビラのテレジア『自叙伝』8章5)

「神さまとは、あるときは父にかかわる(*tratar*)ように、あるときは兄弟姉妹にかかわるように、あるときは主にかかわるように、あるときは恋人・花婿(*esposo*)にかかわるように、かかわるようにするのです。」(『完徳の道』28章3)

○「念仏」と「称名」の関係

・「念ずる」とは？

念仏から称名へ？

・「名」とは？ どう「名づけ name」たらいいのか？

→「神名論」の問題：一般名詞か固有名詞か（大拙）

→「神の名は？」(⇒YHWH)

・「称」とは？

→名を「呼ぶ」？ 「南無阿弥陀仏」は「呼格 vocative」か？

Cf."Jesou Christe Kyrie eleison"

→阿弥陀仏は「人格（神）」か？

→名を「読む」？ (Cf.「読経」)(→陀羅尼、神咒？)

→名を「唱う・詠う・歌う」？

→名を「聞く」？

→「声を出す」(板東)：身体性？

(⇒それぞれの「称え」方で、称える者のあり方が違うようだ。)

・称名の個人性／集団性

・・・一人では「盛り上がり」ない？

・・・一人では踊れない？

称名は一人で？ 大勢で？

・称名が引き起こす「心理状態」(ニコルソン、大拙)

→「変性意識状態 ASC」が志向される？

○「宗教の本領」とは？